

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道147号高家バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	長野県								
起終点	自：長野県安曇野市豊科鳥羽 至：長野県松本市島内			延長	4.2 km									
事業概要	<p>高家バイパスは長野県安曇野市から長野県松本市に至る延長4.2 kmの幹線道路である。本路線は、沿線で整備が進められているあづみ野産業団地等の地域開発に寄与するとともに、交通渋滞の緩和や一般国道254号との連絡による上田・佐久地域との交流・連携の強化等を目的として計画されたものである。</p> <p>H4年度事業化 H元年度都市計画決定 H5年度用地着手 H6年度工事着手</p> <p>全体事業費 137億円 事業進捗率 84% 供用済延長 3.8 km</p> <p>計画交通量 26,000台/日</p>													
費用対効果分析結果	B/C (未完成区間全体) 4.2 (残事業) 14.9	総費用 (残事業)/未完成区間全体 14/49億円 (事業費: 13/48億円 維持管理費: 1/1億円)	総便益 (残事業)/未完成区間全体 208/208億円 (走行時間短縮便益: 202/202億円 走行費用減少便益: 42/42億円 交通事故減少便益: -36/-36億円)	基準年 平成18年										
感度分析の結果	—													
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化の支援・・・豊科ICへのアクセス及びスマートIC構想への寄与 ・都市圏の交通円滑化の推進・・・松本都市環状道路の促進、主要交差点の渋滞緩和 ・道路の防災対策・危機管理の充実・・・緊急輸送道路ネットワーク計画への位置づけ（第1次）等 													
関係する地方公共団体等の意見	国道147号バイパス建設促進期成同盟会（松本市・安曇野市）から早期供用の要望を受けている。													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	特になし													
事業の進捗状況、残事業の内容等	起点側3.2km、終点側0.6kmを供用済み。未供用はあづみ野新橋及びその取付道路部0.4kmのみである。													
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成19年上半期に全線供用の予定。													
施設の構造や工法の変更等	あづみ野新橋の設計見直しにより、コスト縮減を図った。													
対応方針	事業継続													
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、残工事を実施することにより、所期の目的が達成されると考えられる。													
事業概要図	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 50px;">凡</td> <td style="width: 50px;">例</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; width: 20px;"></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, #cccccc 2px, #cccccc 4px); width: 20px;"></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, #cccccc 2px, #cccccc 4px); width: 20px;"></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table> <div style="margin-bottom: 10px;">● 主要渋滞ポイント</div>						凡	例		供用中		再評価箇所		うち供用中
凡	例													
	供用中													
	再評価箇所													
	うち供用中													

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。